

# 決算説明会

## 2020年3月期 第3四半期

**ミネベアミツミ株式会社**

**2020年2月5日**

## 売上高は第3四半期として過去最高

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	249,570	279,473	267,650	+7.2%	-4.2%
営業利益	31,124	19,372	23,058	-25.9% (-11.7%*)	+19.0%
税引前利益	30,333	19,381	23,005	-24.2%	+18.7%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	24,177	13,916	18,991	-21.5%	+36.5%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	57.92	33.52	45.77	-21.0%	+36.5%

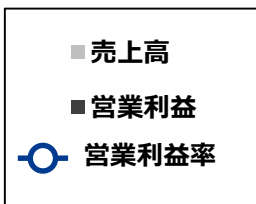
為替レート	2019年3月期 3Q	2020年3月期 2Q	2020年3月期 3Q
US\$	113.43円	107.63円	108.79円
ユーロ	129.92円	120.44円	120.02円
タイバーツ	3.45円	3.50円	3.59円
人民元	16.35円	15.44円	15.37円

\*2019年3月期3Qの一過性収益約50億円を除いた場合

# 売上高、営業利益、営業利益率

18/3期はJGAAP

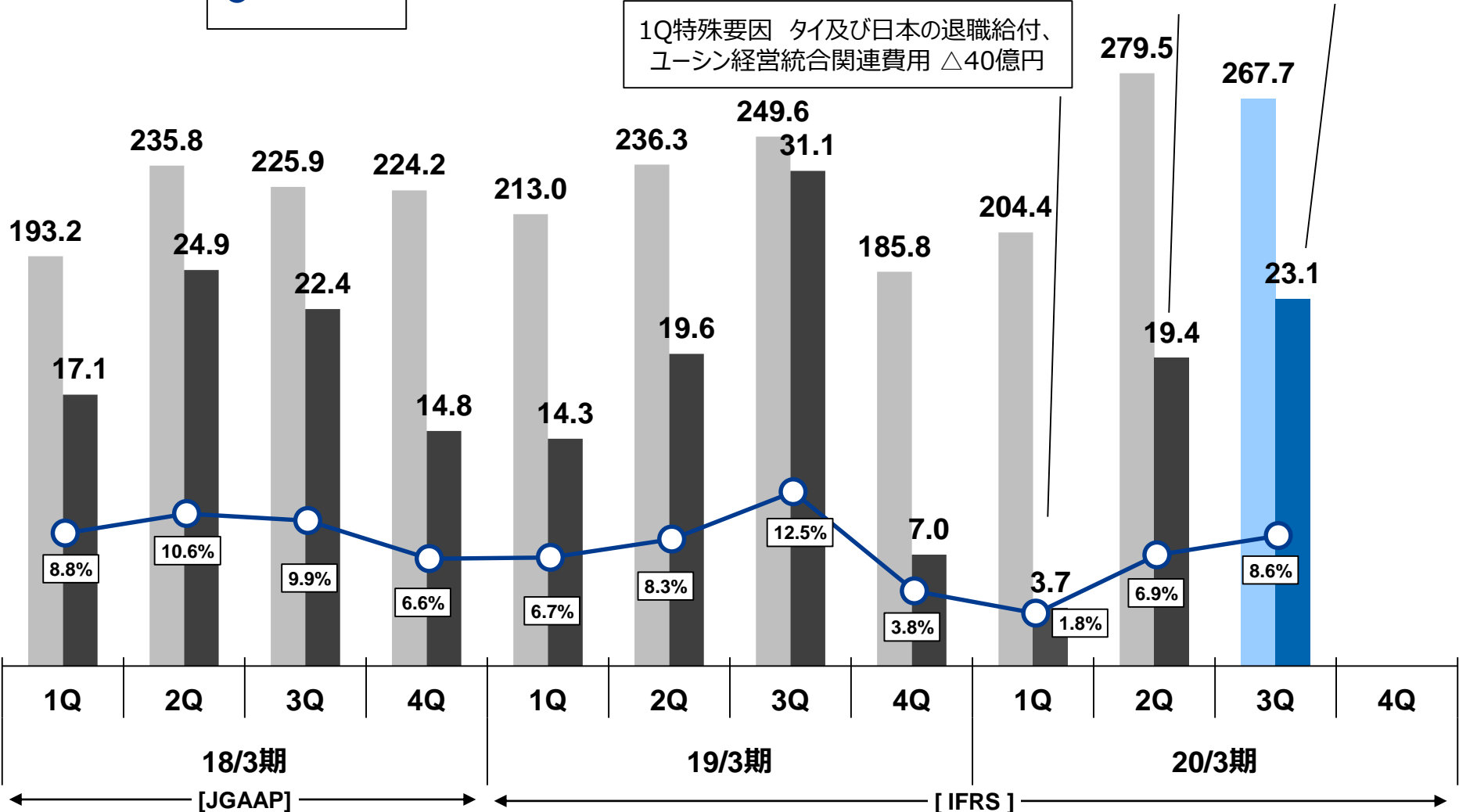
(10億円)



2Q特殊要因 ユーシン経営統合を含む一過性費用 △8億円

3Q特殊要因 ユーシン経営統合を含む一過性費用 △5億円

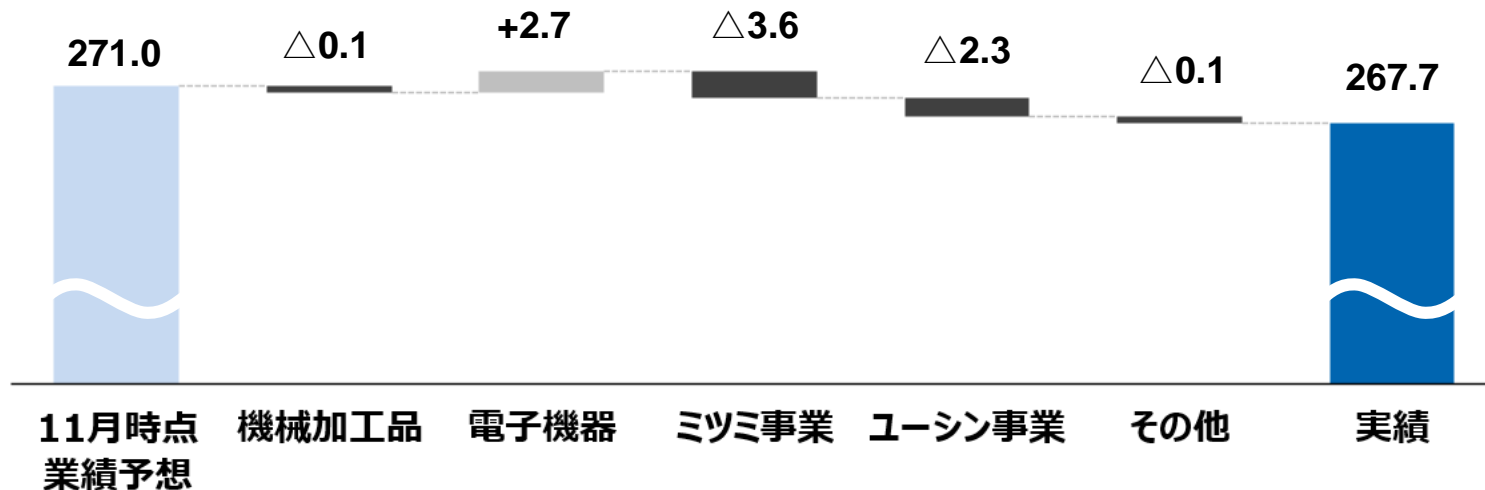
1Q特殊要因 タイ及び日本の退職給付、ユーシン経営統合関連費用 △40億円



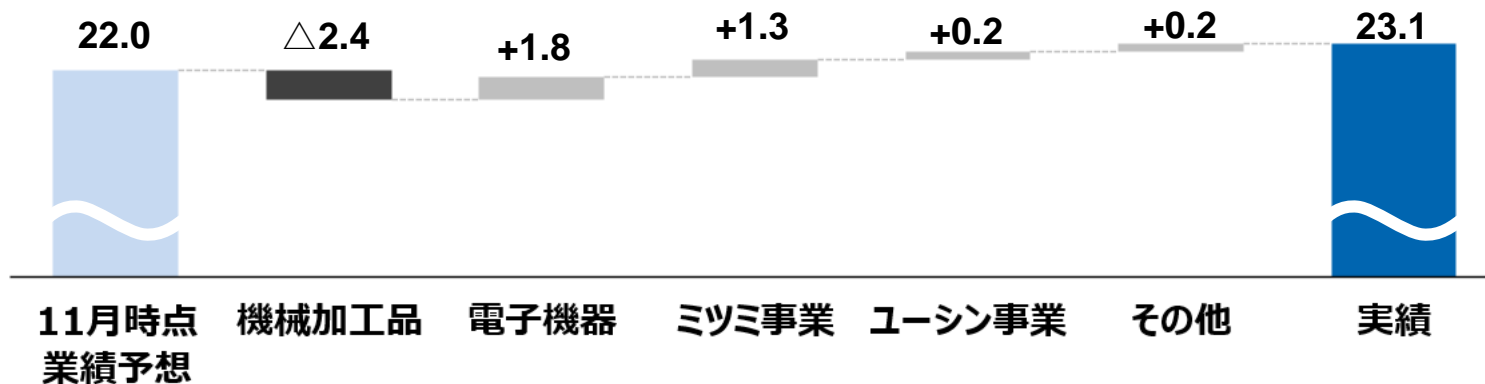
# 3Q実績 11月時点業績予想からの差異

(10億円)

## 売上高



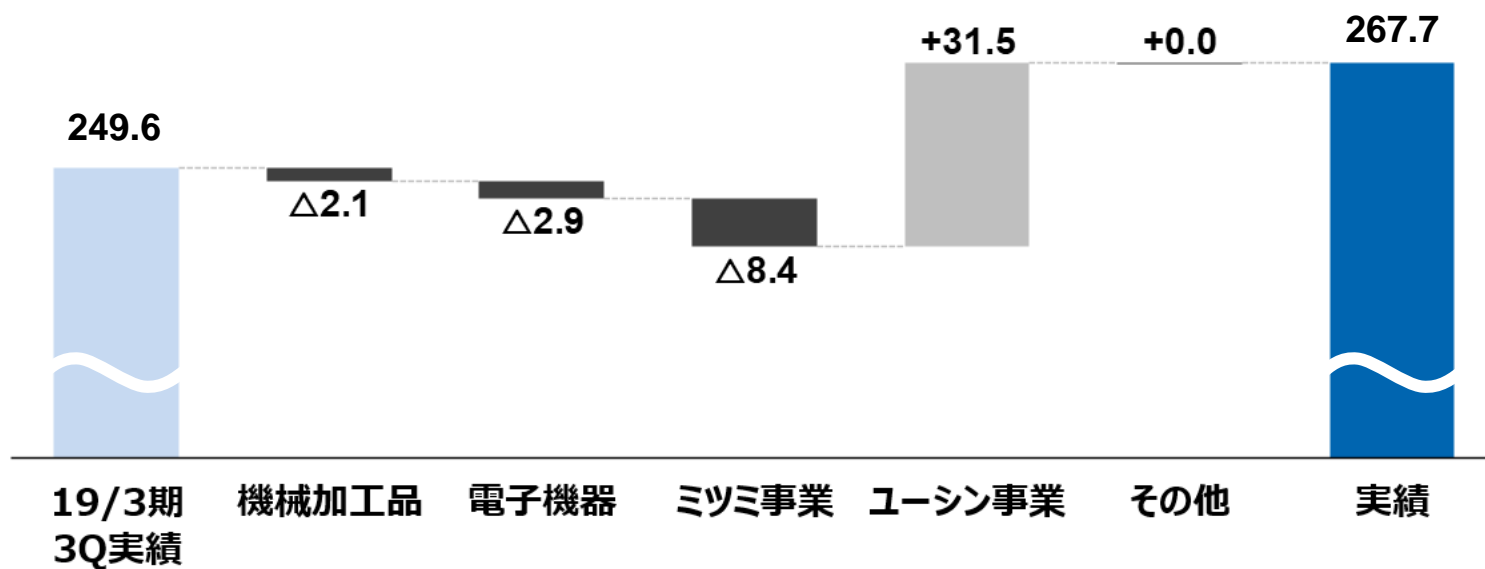
## 営業利益



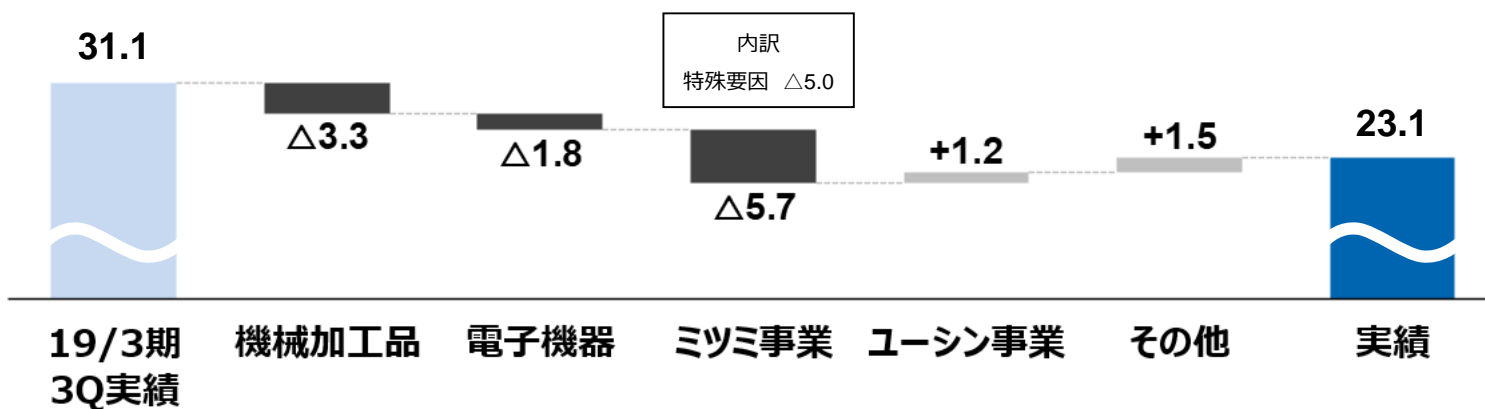
# 3Q実績 19/3期3Q実績との差異

(10億円)

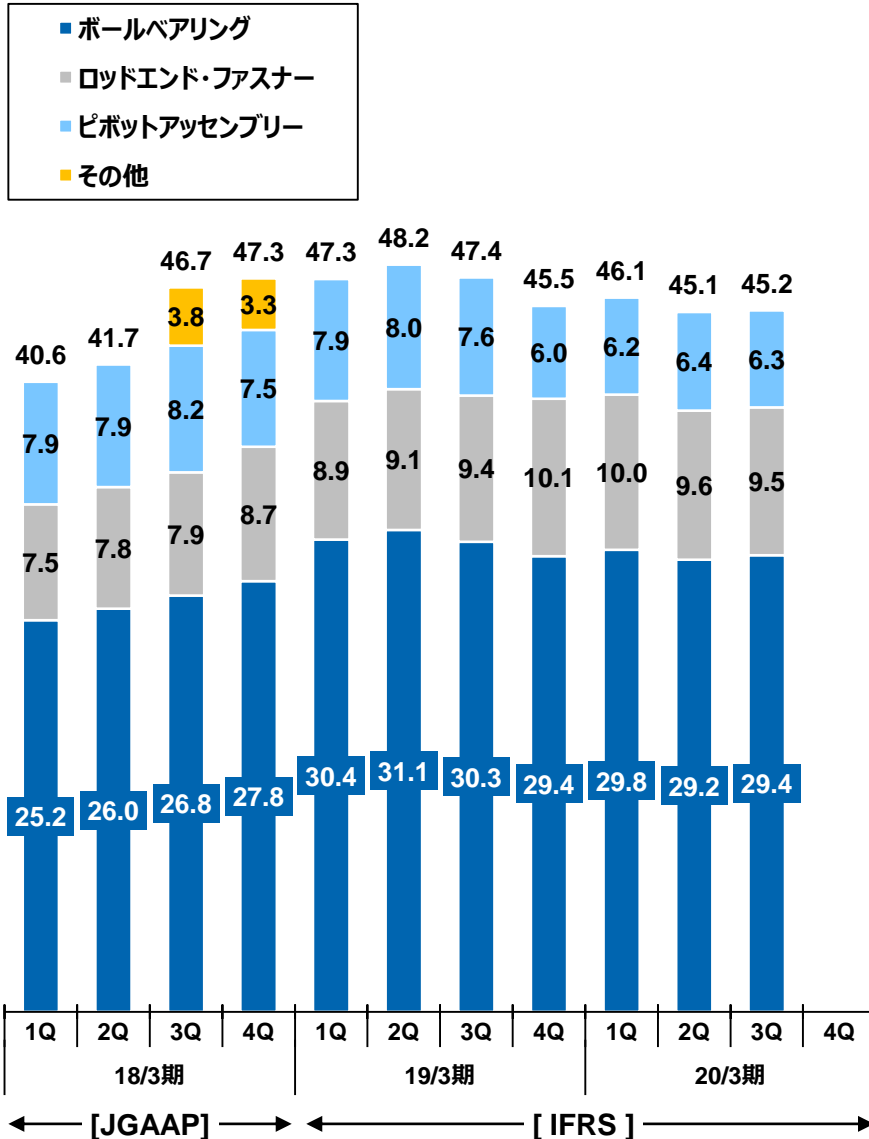
売上高



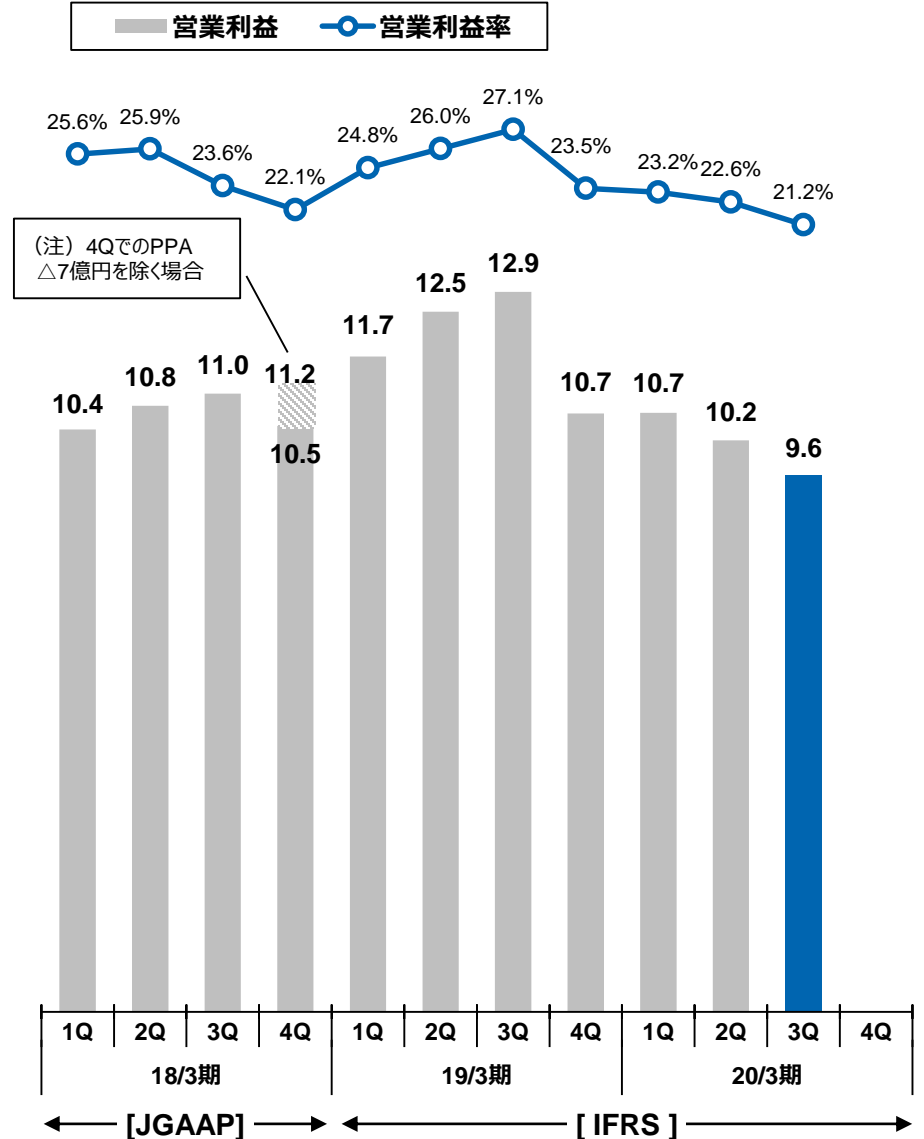
営業利益



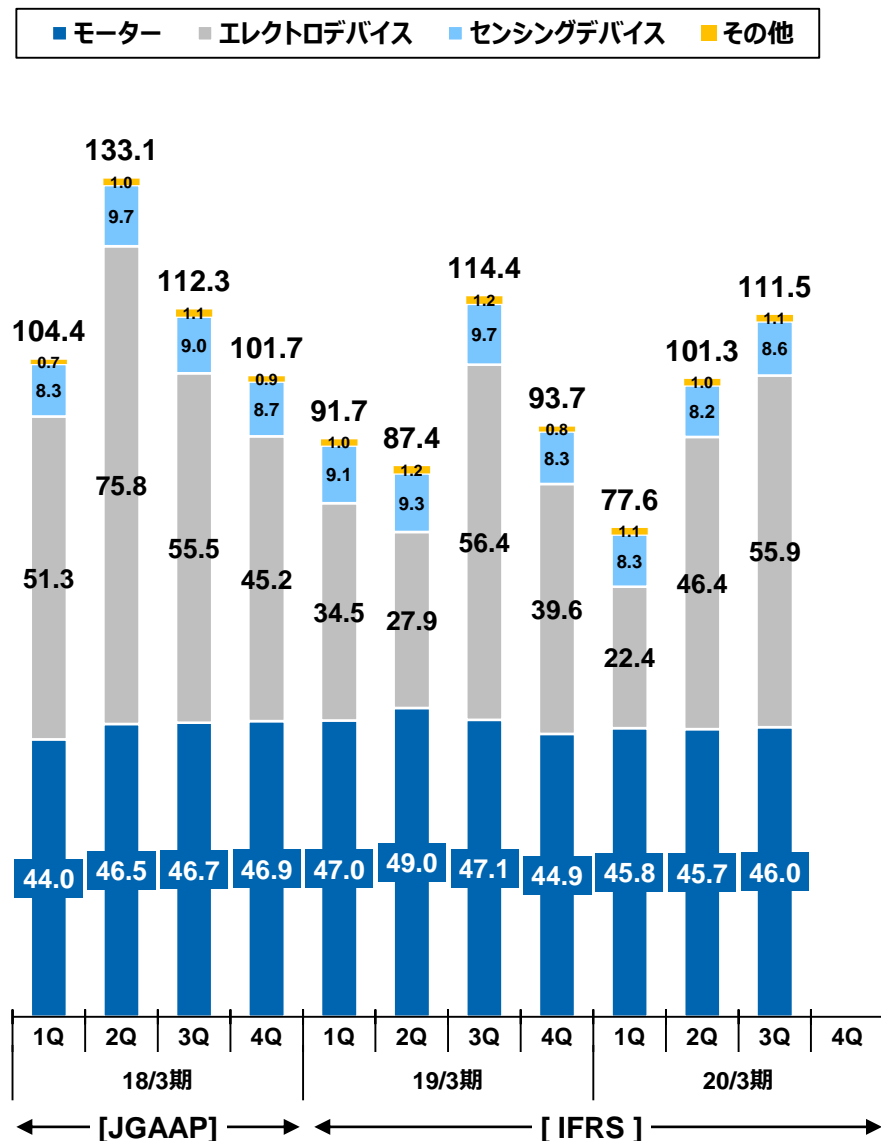
## 売上高 (10億円)



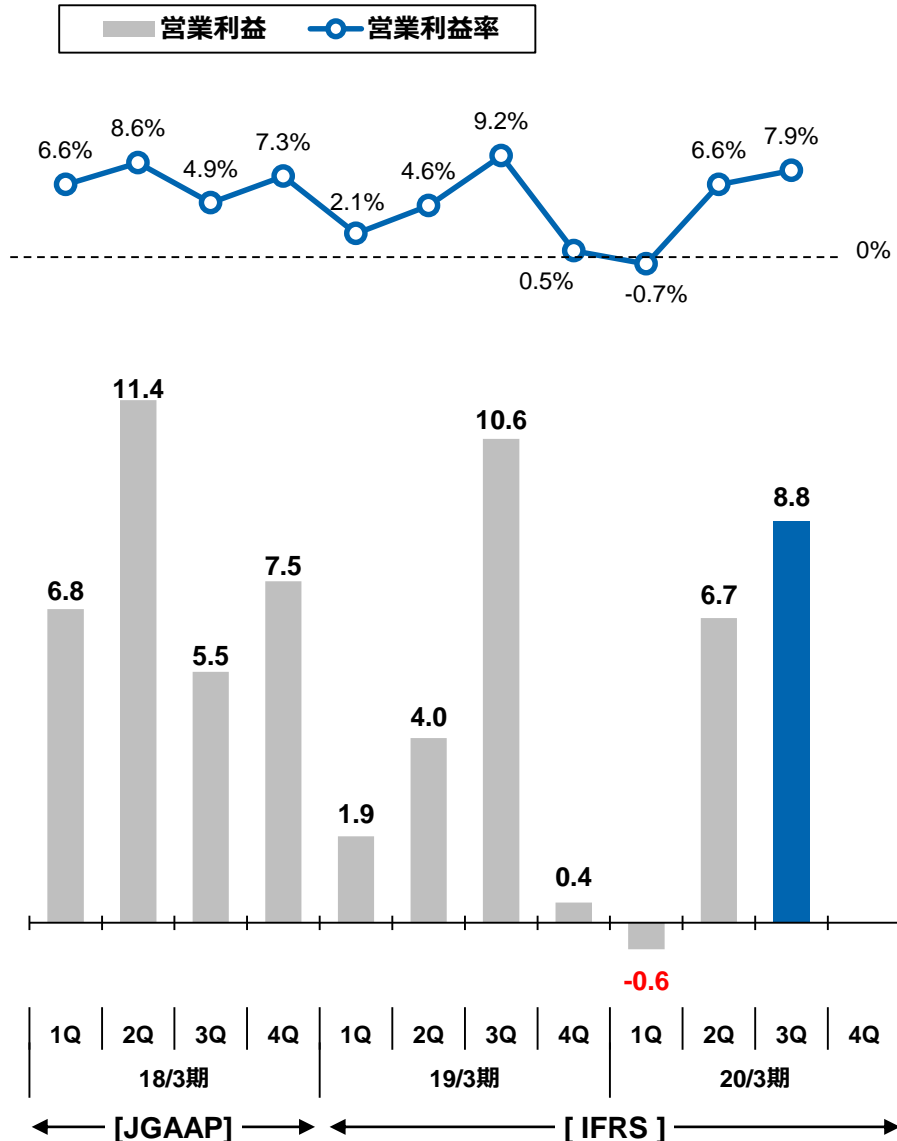
## 営業利益 (10億円)



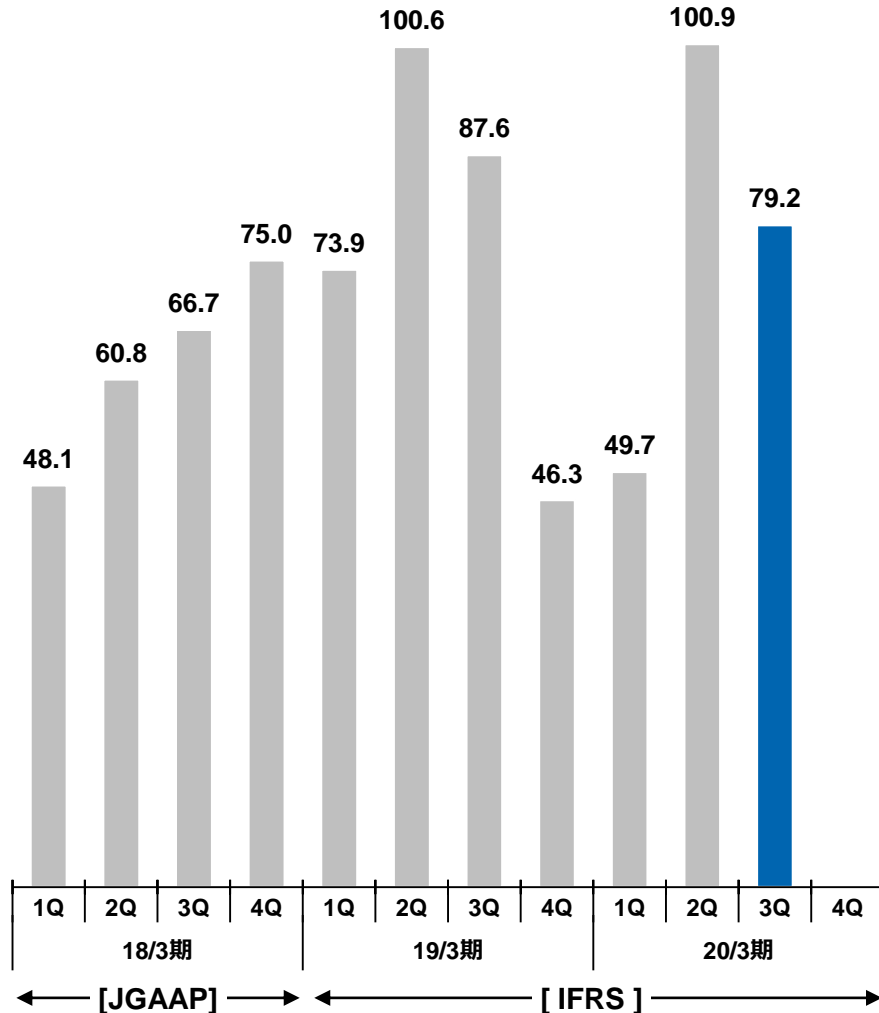
## 売上高 (10億円)



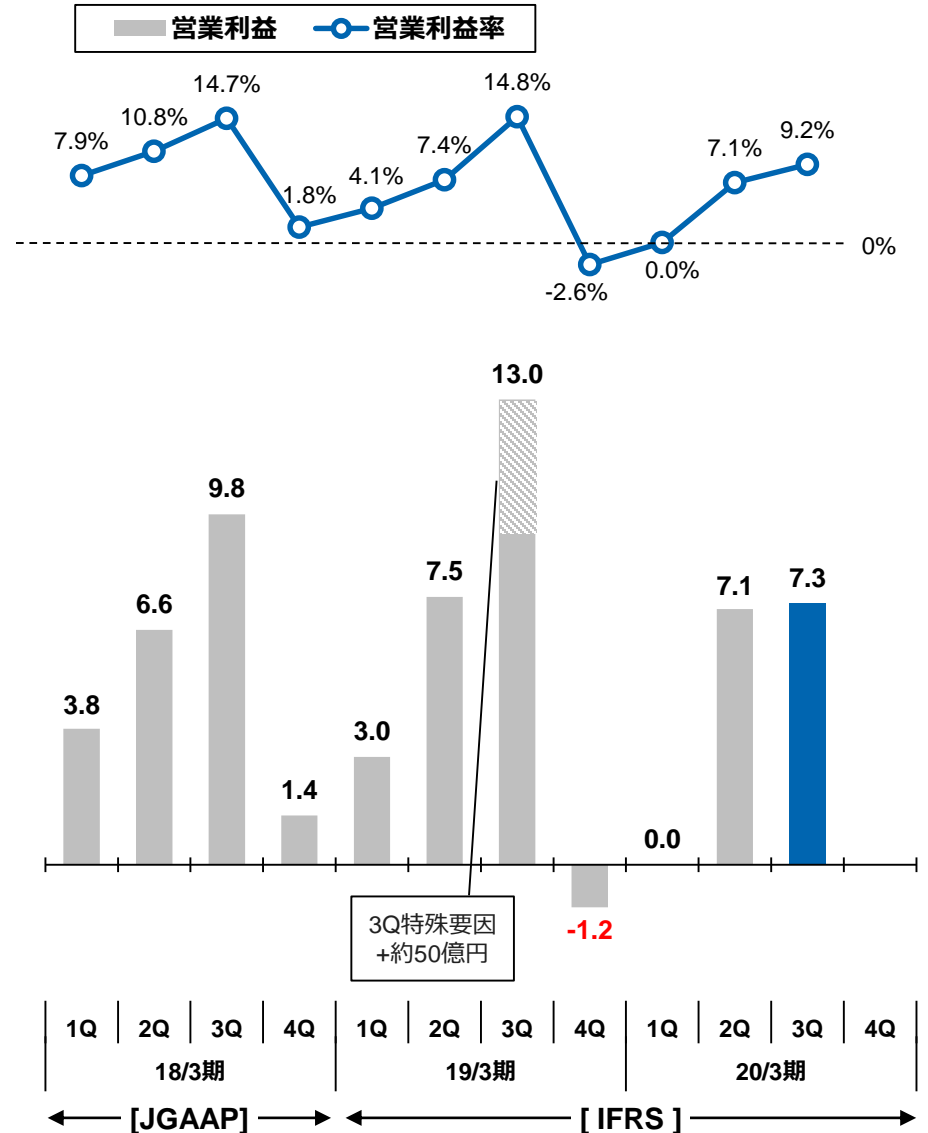
## 営業利益 (10億円)



## 売上高 (10億円)

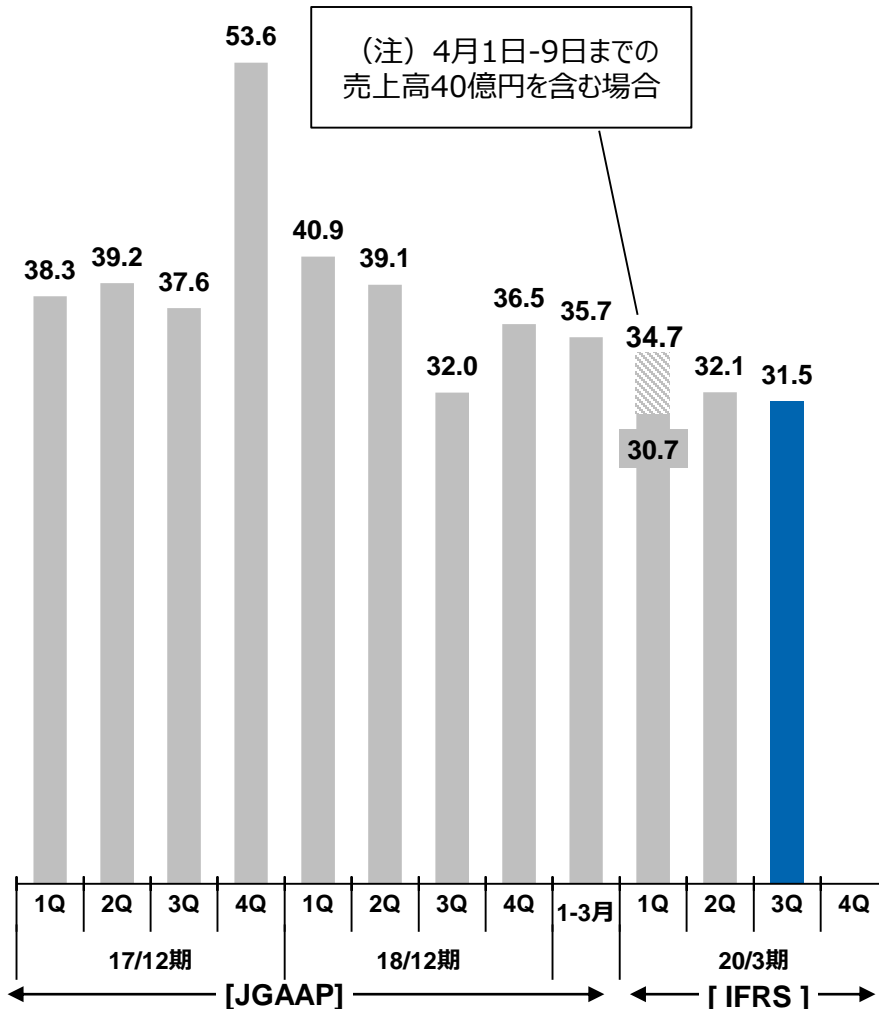


## 営業利益 (10億円)

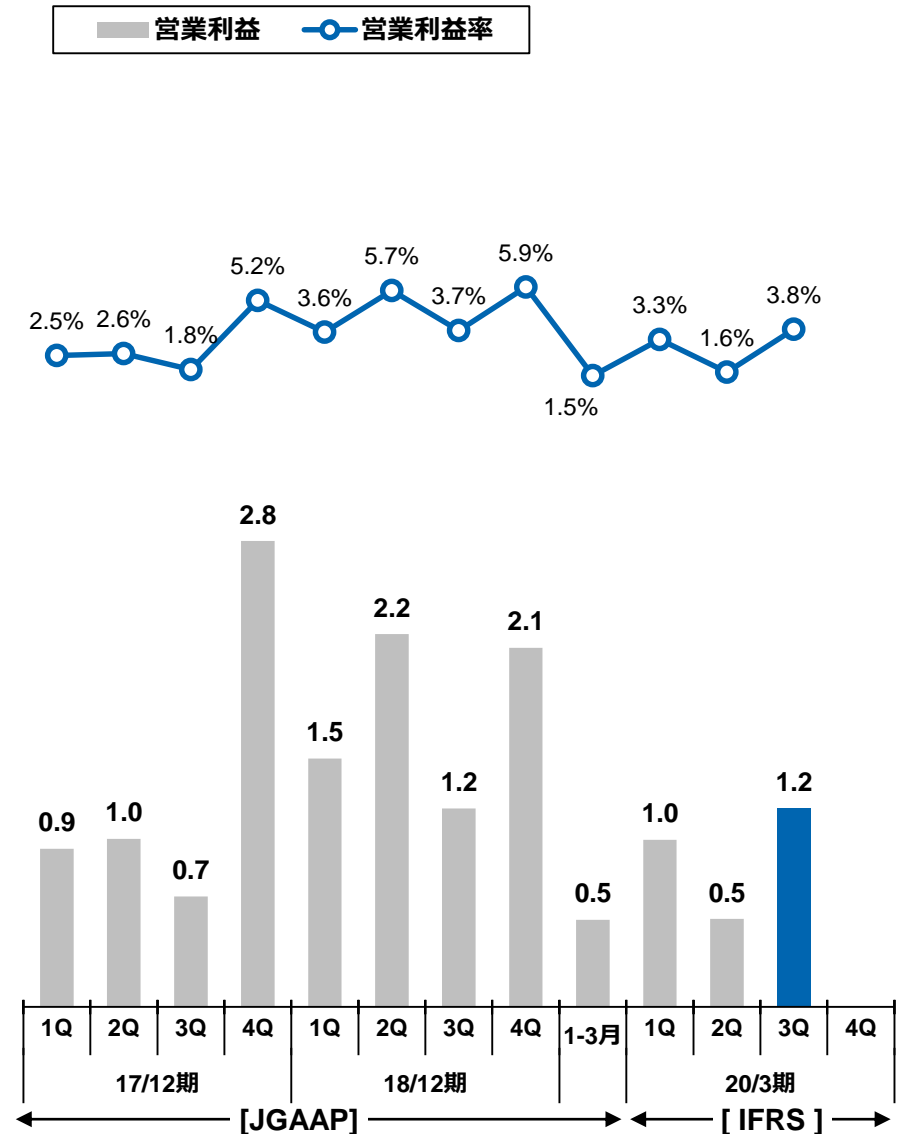




## 売上高 (10億円)



## 営業利益 (10億円)

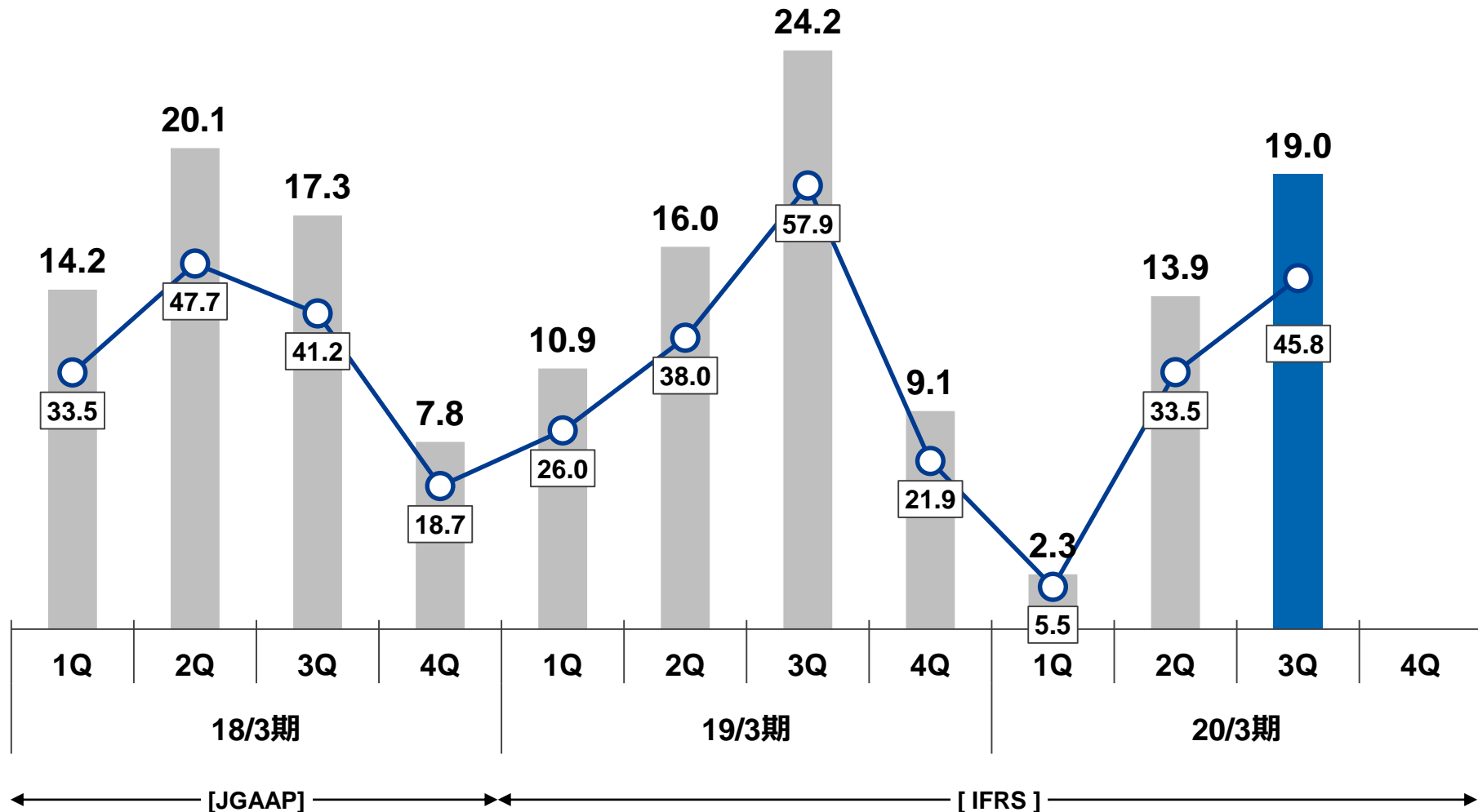


# 親会社の所有者に帰属する四半期利益

18/3期はJGAAP

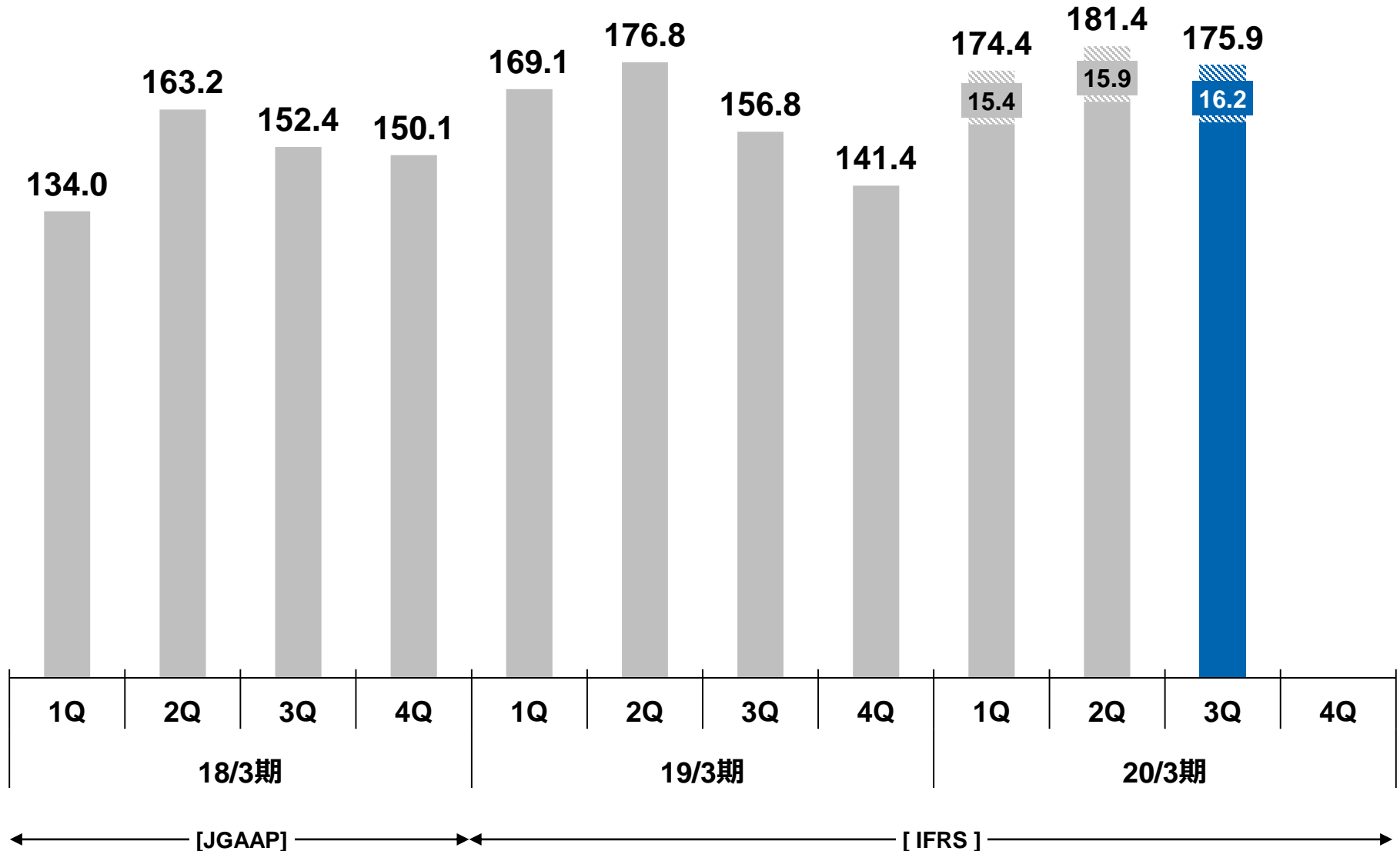
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益  
○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



(10億円)

■ ユーシン連結分

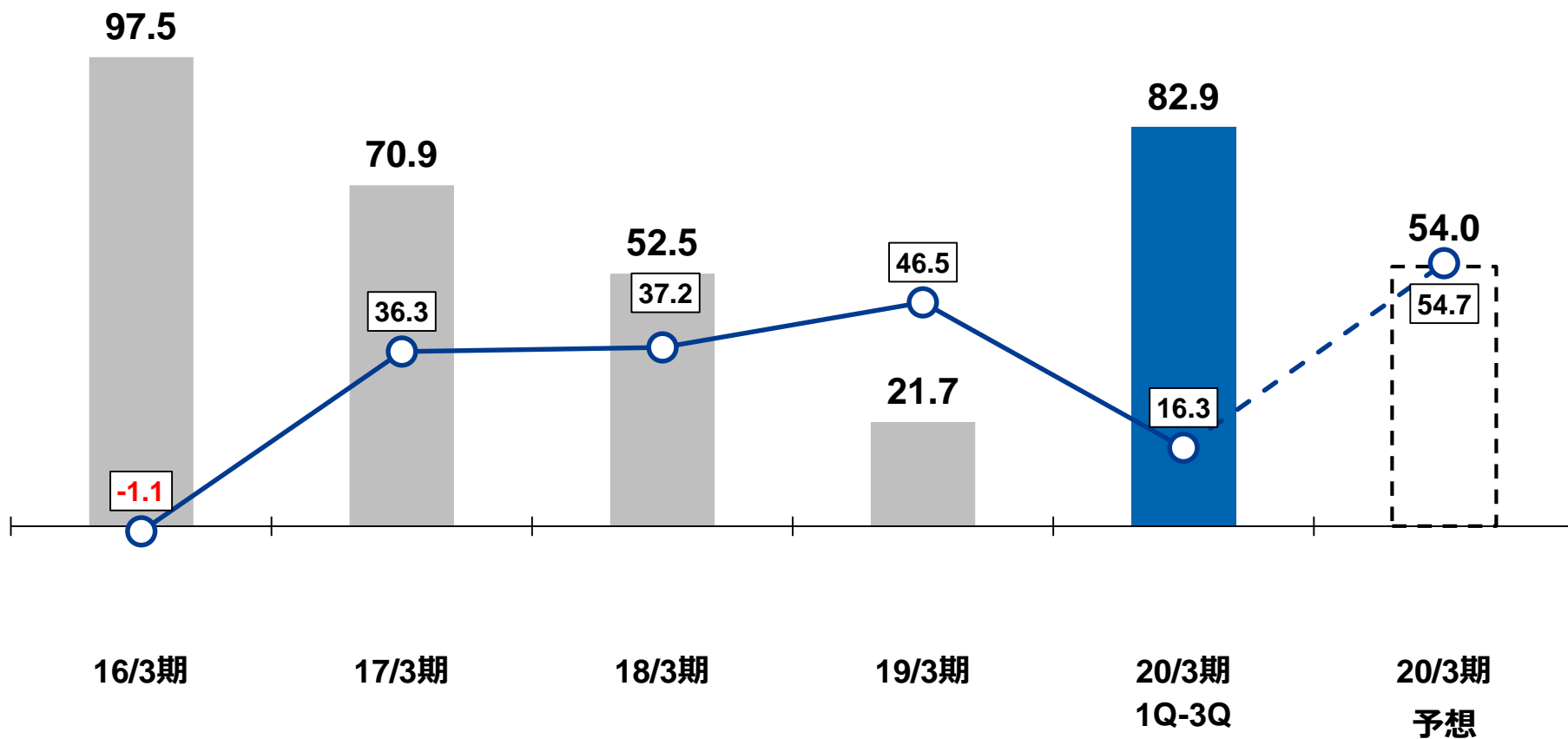


# ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期以前はJGAAP

■ ネット有利子負債\*    ○ フリーキャッシュフロー

(10億円)



\*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - 「現金および現金同等物」+ 3か月超の定期預金

[JGAAP]

[IFRS]

## 通期業績予想は据え置き\*

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	483,898	516,102	1,000,000	+13.0%
営業利益	72,033	23,035	43,965	67,000	-7.0%
税引前利益	71,321	23,061	42,939	66,000	-7.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	60,142	16,213	35,787	52,000	-13.5%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	143.90	39.06	86.25	125.31	-12.9%

為替レート	2019年3月期 通期	2020年3月期 4Q想定
US\$	110.67円	108.00円
ユーロ	128.75円	120.00円
タイバーツ	3.42円	3.50円
人民元	16.52円	15.80円

\*ただし、新型コロナウイルスによる影響は含まれておりません。事態の進展を注視し、業績予想が大きく変わる場合はお知らせいたします。

# セグメント別業績予想

IFRSベース

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期		
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	884,723	483,898	516,102	1,000,000	+13.0%
機械加工品	188,324	91,187	91,813	183,000	-2.8%
電子機器	387,293	178,919	211,081	390,000	+0.7%
ミツミ事業	308,423	150,578	149,422	300,000	-2.7%
ユーシン事業	-	62,792	63,208	126,000	-
その他	683	422	578	1,000	+46.4%
営業利益	72,033	23,035	43,965	67,000	-7.0%
機械加工品	47,750	20,907	20,093	41,000	-14.1%
電子機器	16,922	6,076	15,424	21,500	+27.1%
ミツミ事業	22,282	7,149	13,351	20,500	-8.0%
ユーシン事業	-	1,542	2,158	3,700	-
その他	△ 386	△ 694	△ 806	△ 1,500	3.9倍
調整額	△ 14,535	△ 11,945	△ 6,255	△ 18,200	+25.2%

- 全体：全体として米中貿易問題の影響を受けるも、  
多様化したポートフォリオが収益を支える。リスク分散にも寄与。  
ただし、新型コロナウイルスの影響を注視。
- 機械加工品：ボールベアリング外販数量は鮮明な回復傾向。  
3Q営業利益は製造原価の高い在庫からの出荷で一時的に悪化  
も、4Qから回復基調へ。来期外販数量は210百万個を超える水準  
へ。
- 電子機器・ミツミ事業：スマホ・ゲームは予定通り推移。
- ユーシン事業：中国を中心とする自動車市場の減速が大きく  
通期では前回予想を下回る。
- 今期の自社株買いは、昨年12月より開始。
- 1株当たり純資産も過去最高。(BPS=1,015.36円)

## ボールベアリング外販数量の回復傾向はより鮮明に

### ボールベアリング事業

- 3Q以降、自動車、FAN、エアコン向けを中心に外販は前年同期比で成長。
- 内販は、ピボット向けで縮小傾向。
- 積極的な拡販で裾野を広げる。
- 生産数量の引き上げで収益改善へ。

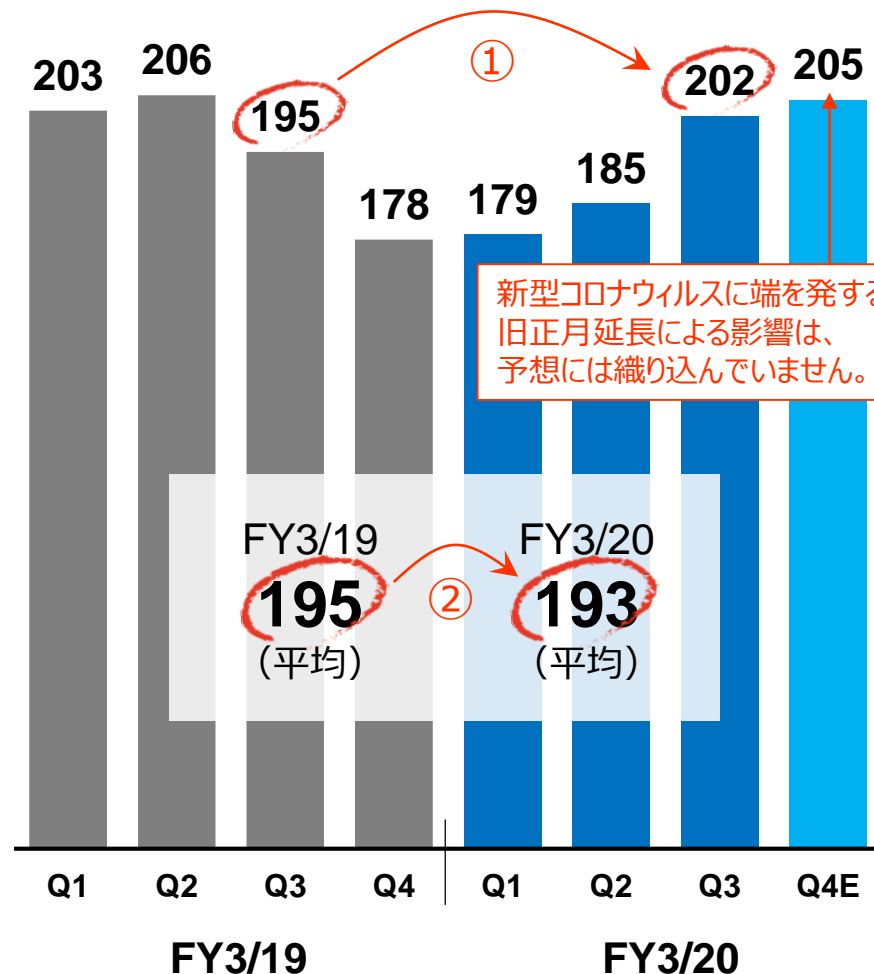
#### 外販数量のYoY増減（月次平均）

	①3Q（実績）	②通期（見込み）
外販数量	+7百万個 (+4%)	-2百万個 (-1%)
自動車	+5百万個 (+8%)	+4百万個 (+6%)
FAN	+2百万個 (+4%)	-8百万個 (-15%)
エアコン	+4百万個 (+45%)	+3百万個 (+31%)

### ロッドエンド・ファスナー事業

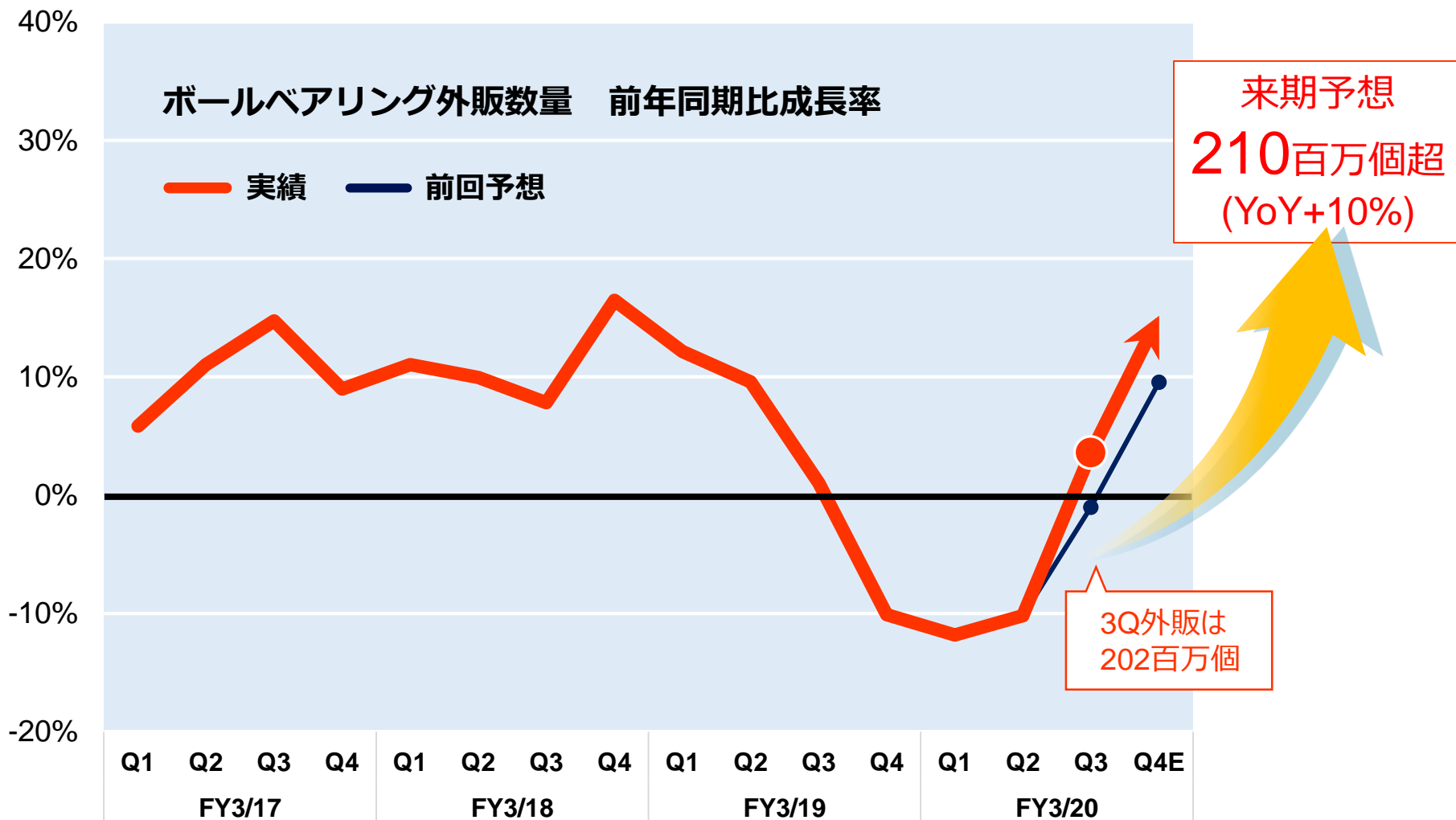
- 来期の737MAXによる影響は、他顧客向け、防衛向け、新規受注等でカバーを見込む。

ボールベアリング外販数量（百万個/月）






## 前回予想をさらに上回って回復



## エイブリック株式会社の概要

<b>名称</b>	エイブリック株式会社			
<b>所在地</b>	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目8番地			
<b>代表者の役職・氏名</b>	代表取締役社長兼CEO 石合 信正			
<b>事業内容</b>	アナログ半導体製品の開発・設計・製造・販売			
<b>資本金</b>	92億5,000万円			
<b>設立年月日</b>	2015年9月28日			
<b>大株主及び持株比率</b>	株式会社日本政策投資銀行	70%	セイコーインスツル株式会社	
		30%		
<b>最近3年間の経営 成績及び財政状態 (百万円)</b>		17/3期	18/3期	19/3期
	売上高	28,548	32,784	32,851
	営業利益	2,464	4,832	4,174
	純資産	18,426	21,203	23,410
	総資産	42,897	45,251	45,039

## 2.6兆円アナログ半導体市場におけるプレゼンス強化

### 販売

#### 主力製品の強化と顧客基盤拡大

- 両社の販路を相互に活用し、車載向け、産業・住設機器向け、医療機器向け市場への拡販
- 車載用半導体のノウハウ（技術、生産、品質管理）の深化

### 生産

#### 高い技術とコスト競争力を兼ね備え、安定供給可能な生産体制の構築

- 前工程・後工程共に2工場化による相互ポーティング
- 多品種少量生産モデルでの高効率オペレーション
- 内製ポートフォリオ増強による製造力の強化

### 技術 開発

#### 総合電子部品とアナログ半導体の技術シナジーによる新製品開発力の強化

- モーターやセンサー、無線通信といった当社技術基盤とのシナジーによる新製品創出
- エイブリックの電池レス技術の当社IoT製品への展開
- 補完関係にある両社の技術の融合で、更に高性能・高精度機能製品を開発

- 1 両社の特徴ある半導体技術の強みを融合
- 2 ミネベアミツミの基盤技術の活用

差別化された新製品を次なる柱に  
売上1,000億円の土台は完成

19/3期  
売上高 (億円)

230

330

560

営業利益率  
約10%

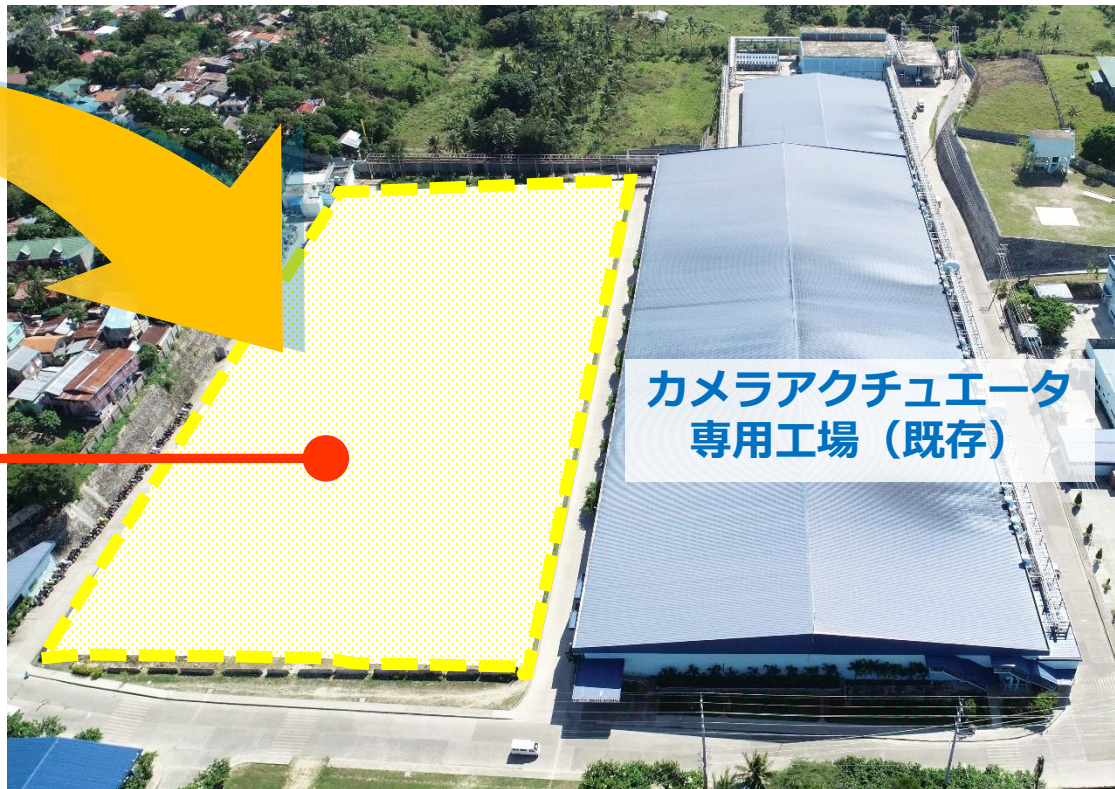
1,000

営業利益率  
10%

## セブ工場に新工場を建設し 将来の旺盛な需要に対応する



Cebu Mitsumi



カメラアクチュエータ  
専用工場（既存）

**新工場（予定）**

床面積：15,000m<sup>2</sup>

## 自社株買いの状況（2020年1月末までの実績）

- 取得株式総数：**304万株**（進捗率40.6%）
- 取得株式総額：**70億円**（進捗率46.8%）

### （ご参考）2019年5月8日 決議内容

取得株式総数：上限 **750万株**

（発行済株式総数（自己株式を除く）の1.81%）

取得株式総額：上限 **150億円**

取得期間：2019年5月9日から2020年4月30日まで

理由：株主還元および資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するため

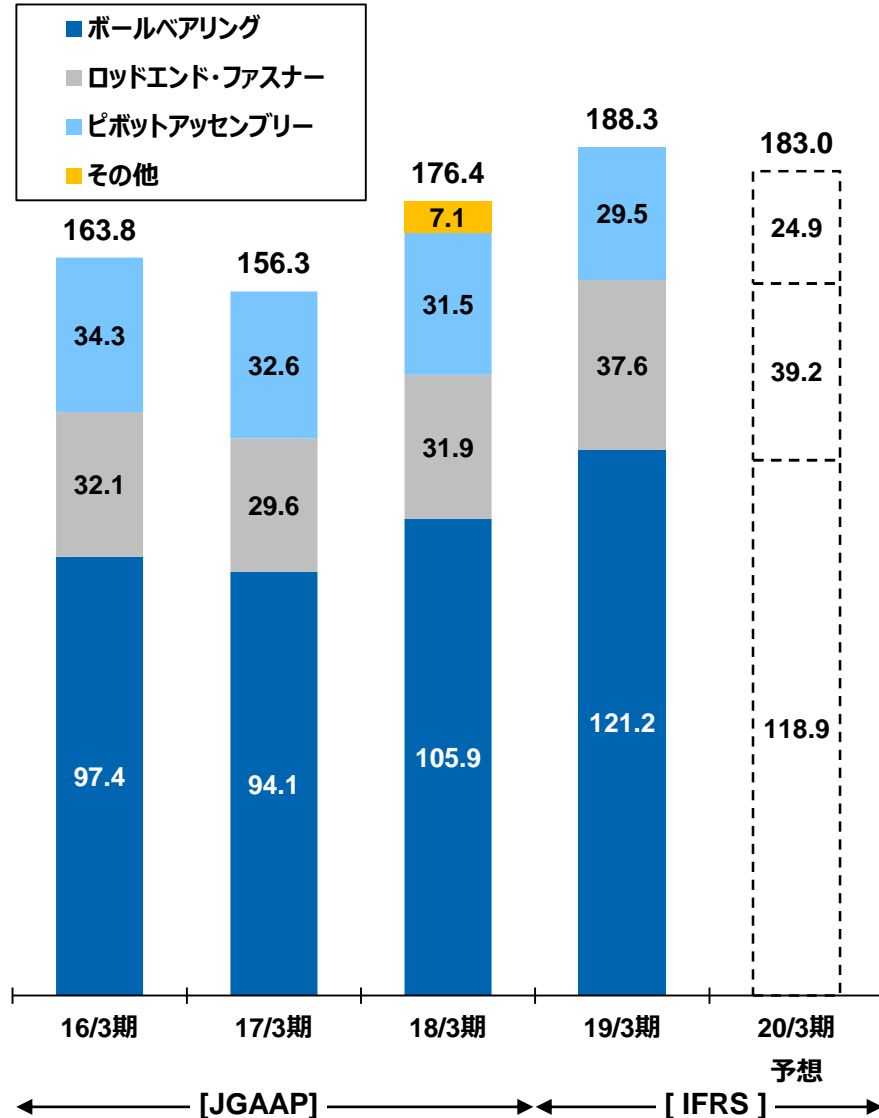


当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

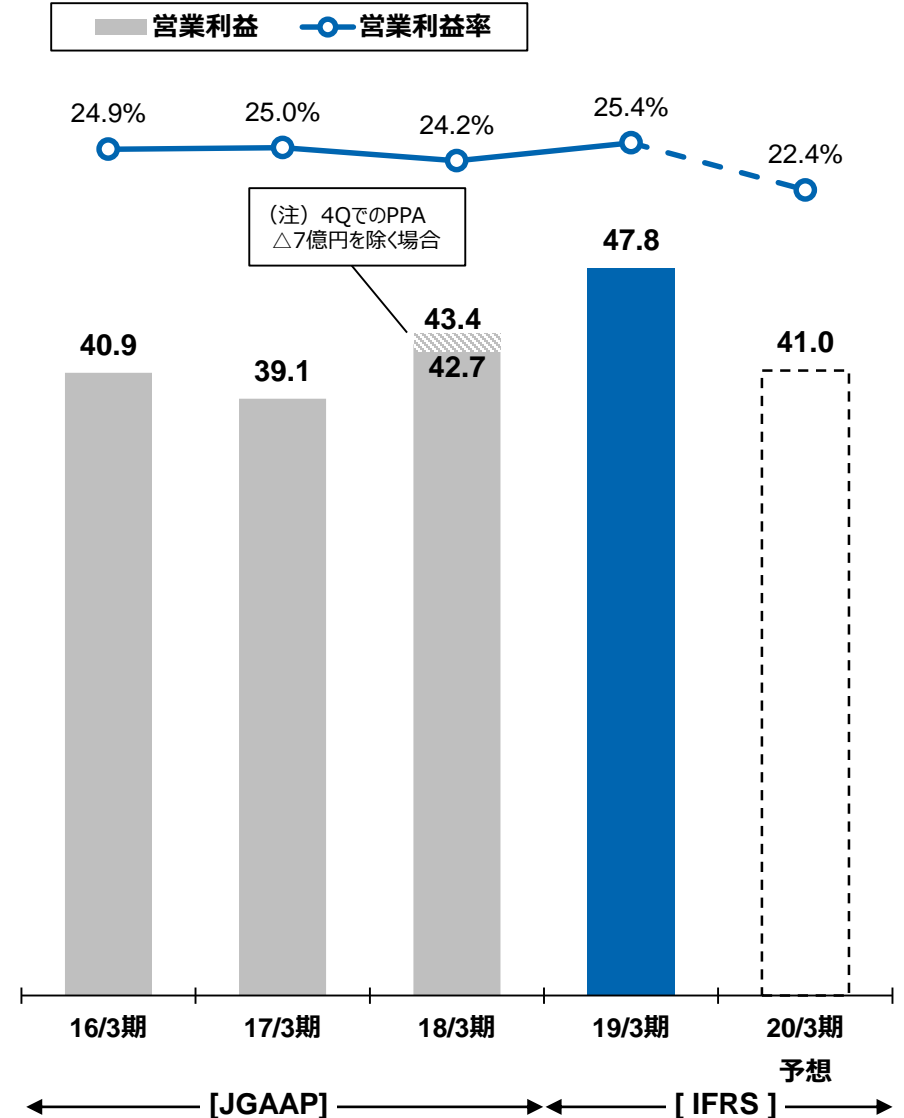
# 參考資料



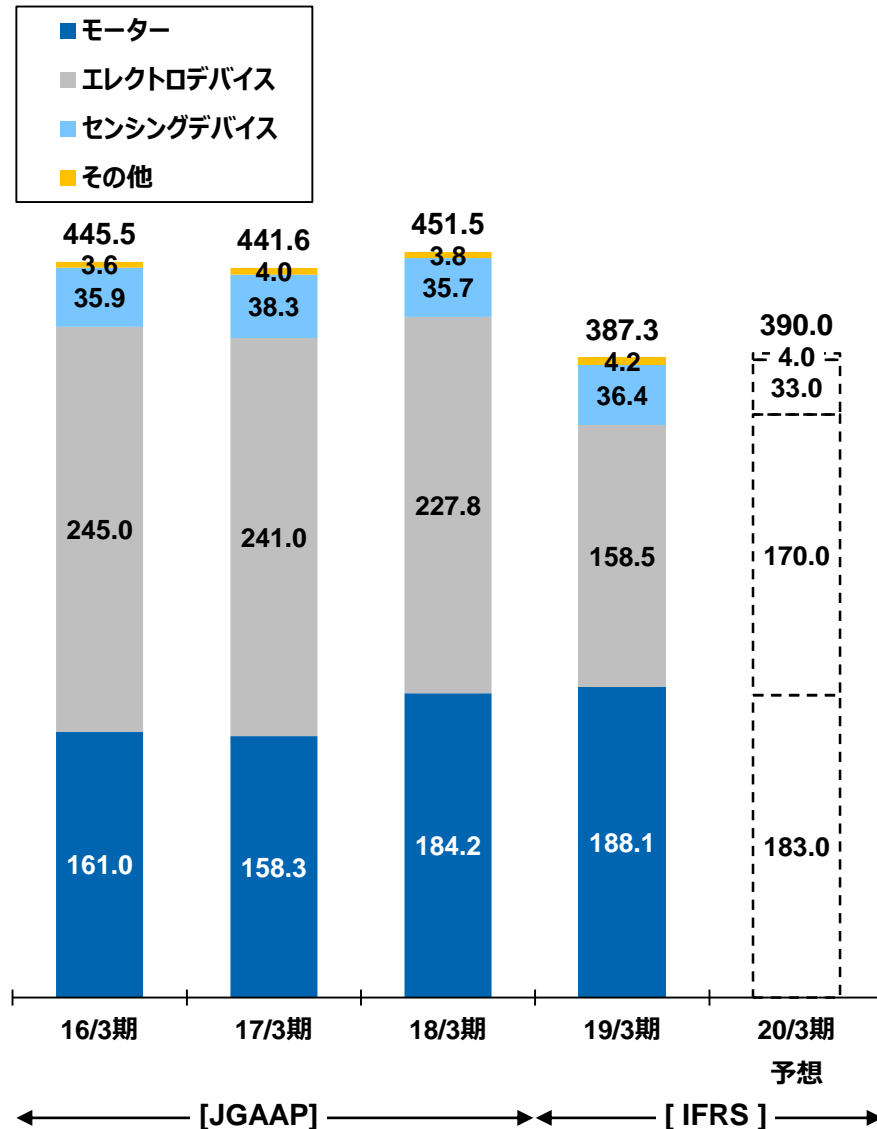
## 売上高 (10億円)



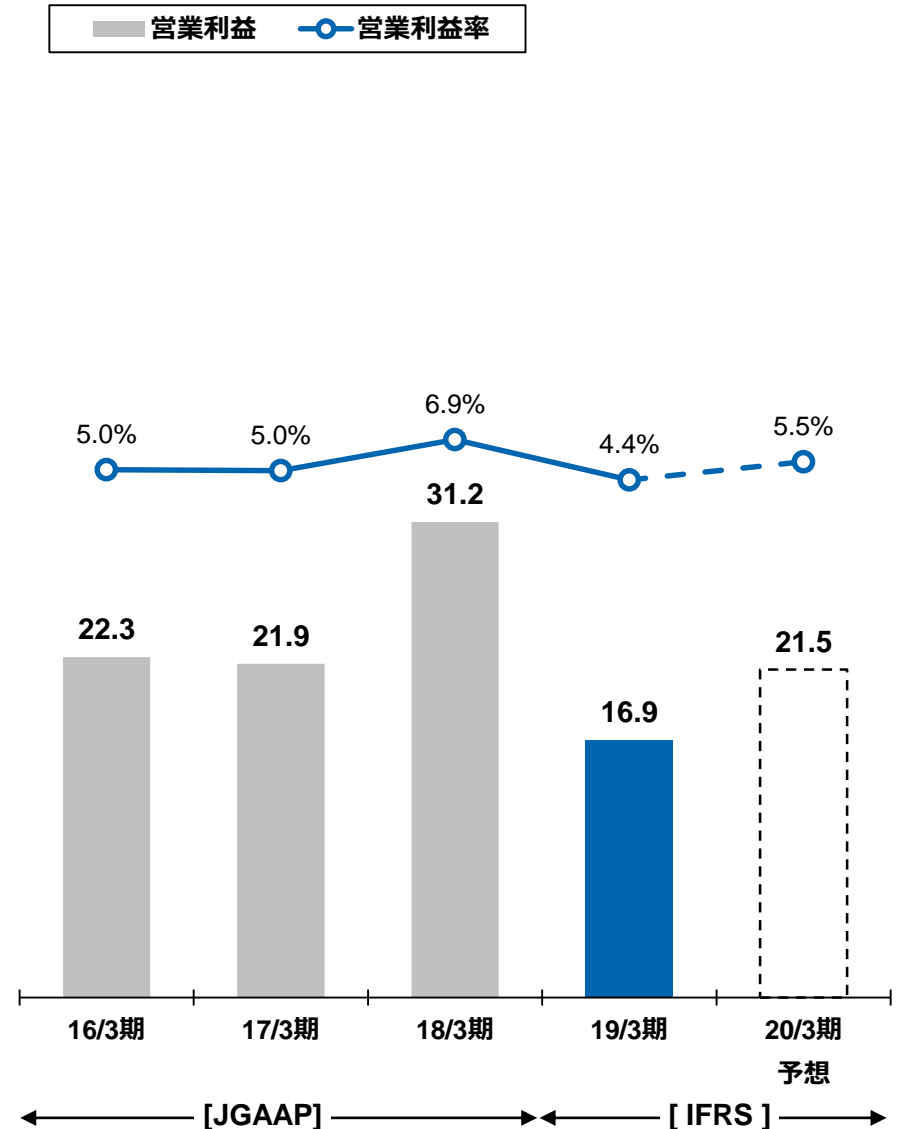
## 営業利益 (10億円)



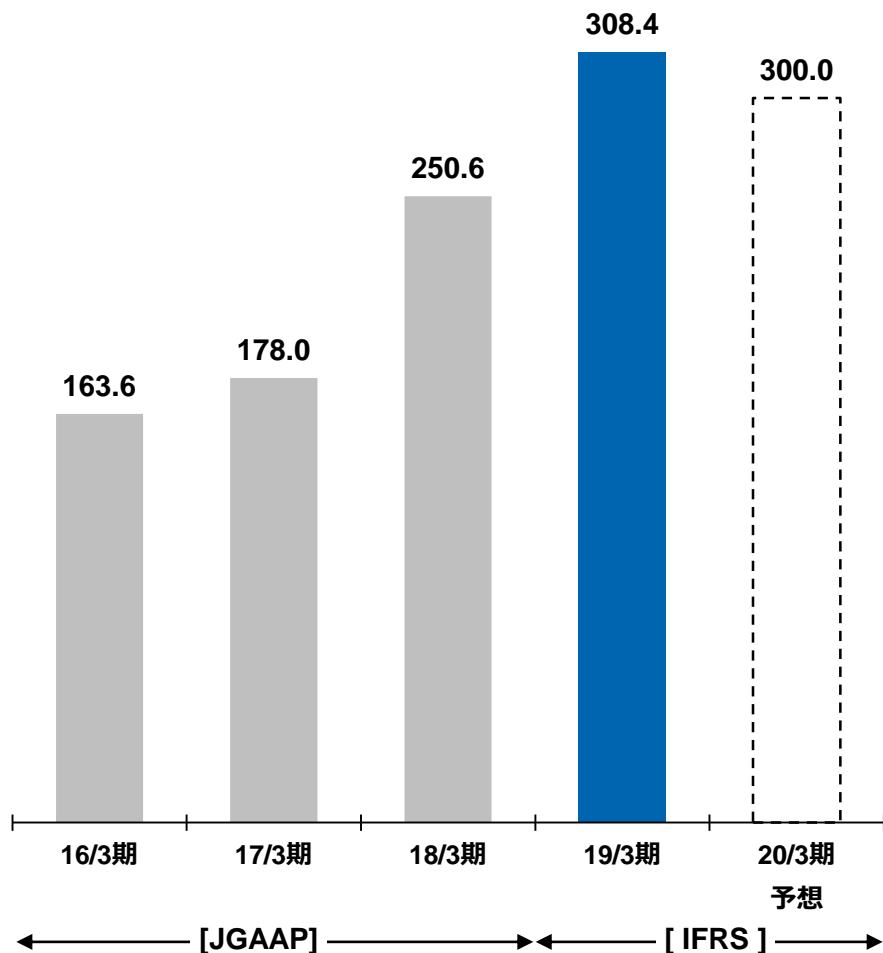
## 売上高 (10億円)



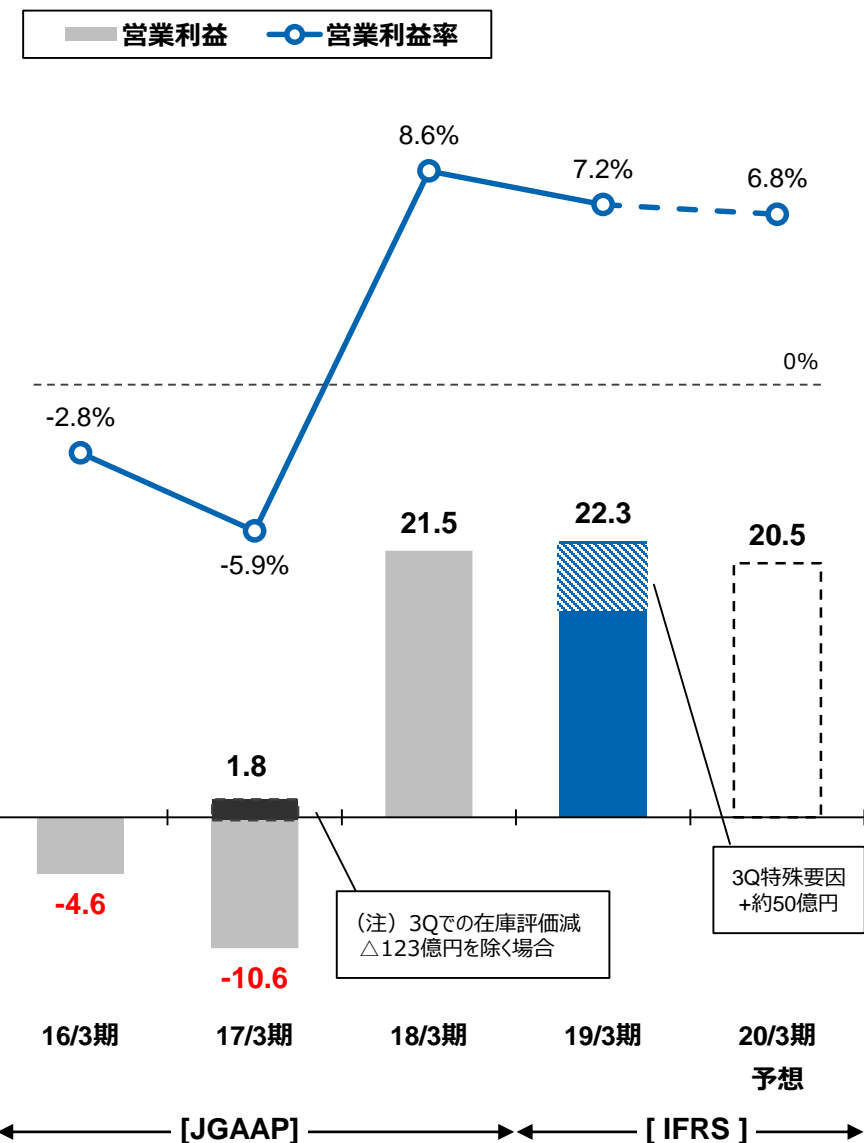
## 営業利益 (10億円)



## 売上高 (10億円)



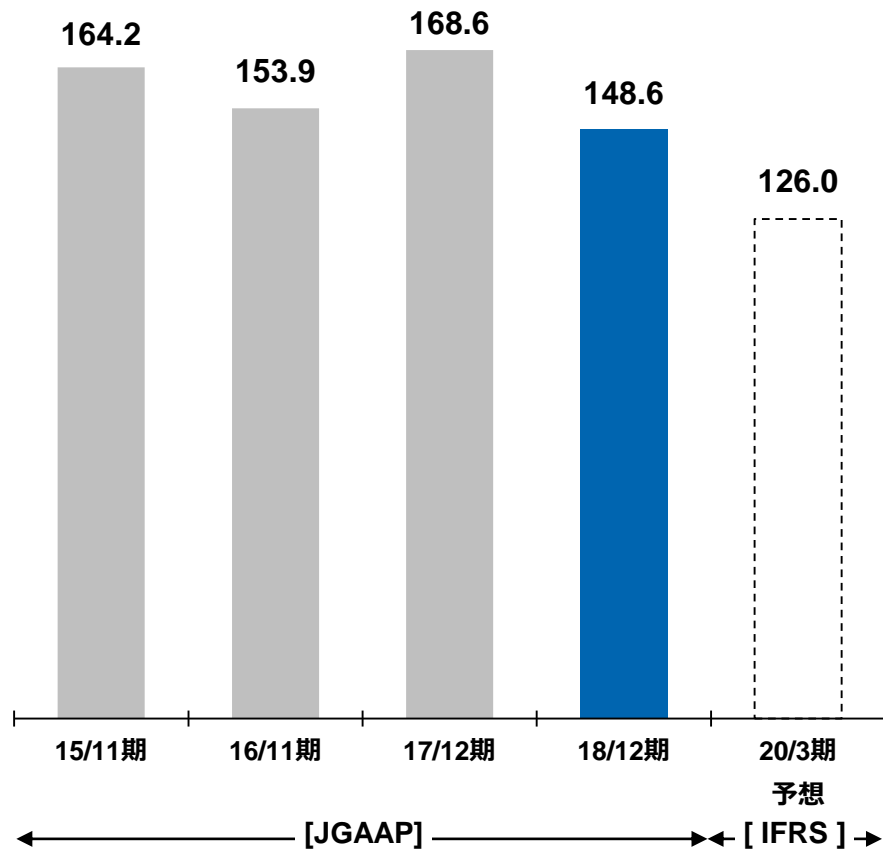
## 営業利益 (10億円)



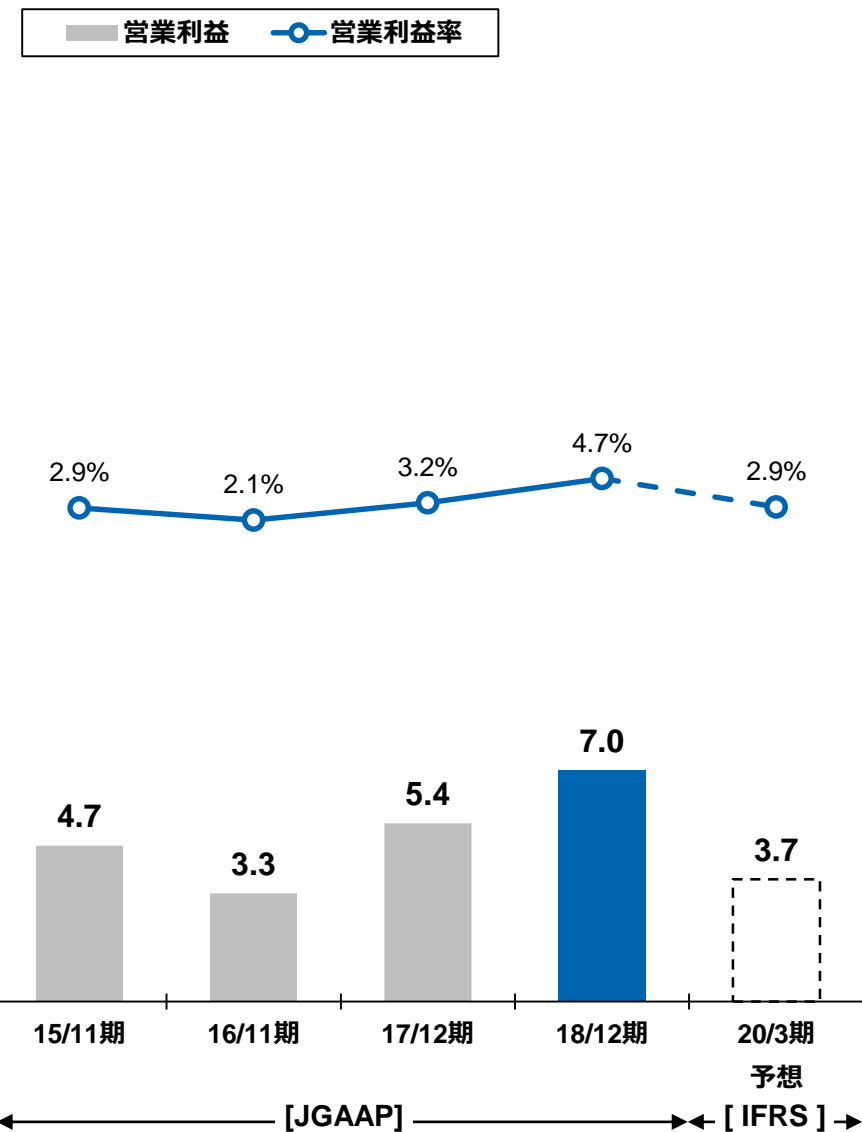
# ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算  
 18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP  
 20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

## 売上高 (10億円)

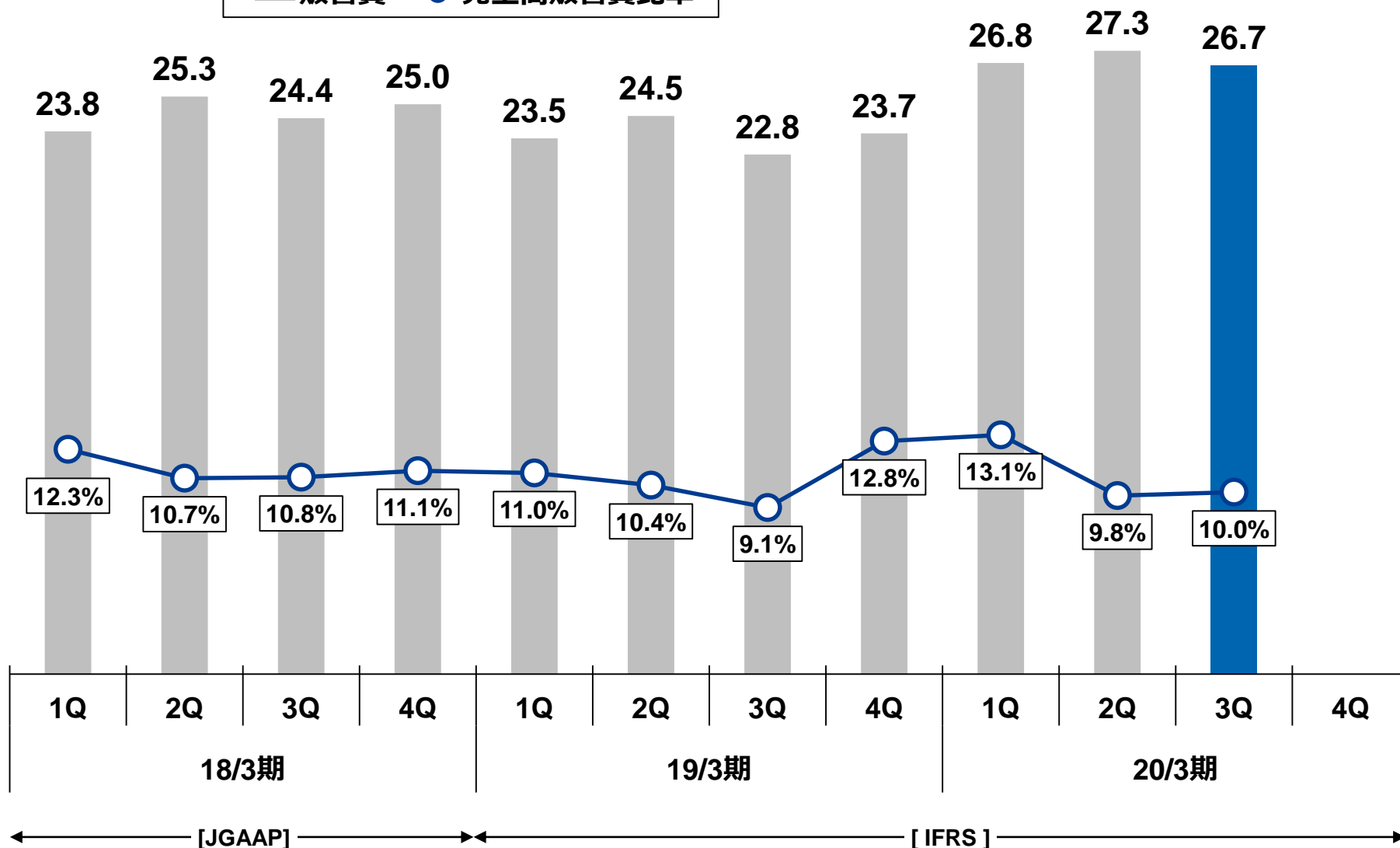


## 営業利益 (10億円)



(10億円)

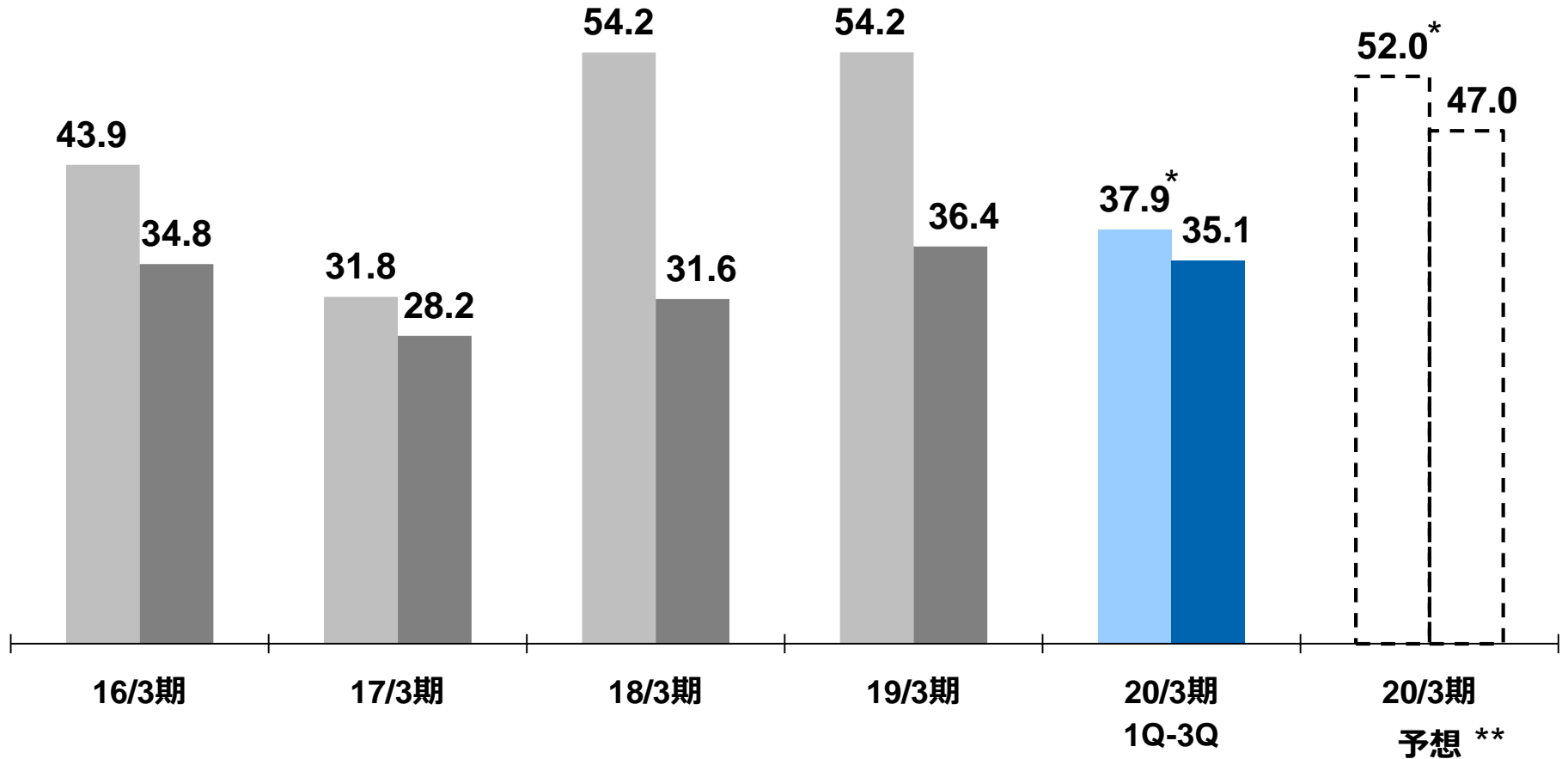
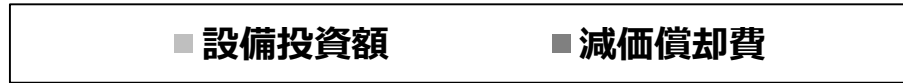
■ 販管費    ○ 売上高販管費比率



# 設備投資額・減価償却費

18/3期以前はJGAAP

(10億円)



\* 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。

\*\* 20/3期予想にはユーシンの設備投資89億円、減価償却費45億円を含む

[JGAAP]

[IFRS]

# ROIC (投下資本利益率)

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

ミネベアミツミ版  
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1-\text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

